

ネパール北中部で話されるチベット語ツム方言における 牧畜文化語彙の調査報告

海老原志穂

キーワード：牧畜文化語彙、民俗語彙、ネパール、チベット諸語、ツム方言、ヤク、ゾ

1 はじめに

チベット・ヒマラヤ地域は標高が全体的に高く、高地寒冷であるという気候条件のため、伝統的に、ヤク、ゾなどのウシ属の他、羊、山羊、馬などの放牧が専門的に、または農牧混合で行われてきた。そのためチベット諸語では、牧畜文化に関する語彙、特に、家畜を個体識別するための認識語彙が顕著に発達している。筆者は、これまでに東北チベットで話されるアムド・チベット語における家畜の認識語彙の詳細な記述(海老原 2018)を行った他、本誌前号に掲載された「ブータンにおける牧畜文化語彙の調査報告」(海老原 2020)、「ヤクとゾの毛色の識別に用いられる色彩語彙の比較研究」(海老原 forthcoming)などにおいて、チベット・ヒマラヤ各地の牧畜文化語彙の調査報告を行っている。また、『チベット牧畜文化辞典(チベット語・日本語)』(星他(編) 2020)の編纂に関わる中で、牧畜文化語彙への理解を深めてきた。同辞典に収録された単語は、放牧地の地形・天候、家畜管理において重要な役割を果たす家畜の認識語彙、乳加工(ヨーグルト、ミルク、バター)、畜産物生産(屠畜、解体)、(家畜ごと、季節ごとの)家畜の糞の名称とその活用方法、服飾文化、食文化、住文化(テントの種類と部位)、そして、宗教文化(放生)と多岐にわたる。これら一連の単語はチベットの生態環境、生業文化と密接に結びついた民俗語彙であるといえる。

現状では、牧畜の伝播を考える観点からも地域間の比較検討が俟たれるが、アムドの他、中央チベットのナクチュなど限られた地域を除いて体系的な解明が進んでいない。本稿は、チベット・ヒマラヤ地域における牧畜文化語彙の研究の一環として、2020年2月14日-3月3日のネパール滞在中に行った、ツム方言の牧畜文化語彙の現地調査に基づいた研究報告である。

2 調査の概要

本調査の対象とする言語は、ネパール中北部に位置する、ゴルカ地区(Gorkha District)ツム谷(Tsum Valley)で話される中央チベット語ツム方言である。聞き取り調査は、ネパールの首都カトマンドゥに短期滞在中のツム方言話者に協力をいただき、カトマンドゥにて2020年2月18日に行った。調査時間が全体で1時間半程度という時間的制約の中ではあったが、牧畜文化研究の観点から非常に興味深い調査結果が得られた。以下に調査協力者について(§2.1)、そして、ツム谷における牧畜の現状について(§2.2)述べる。

2.1 調査協力者

調査協力者はTD女史(2002年生まれ, 調査当時18歳)である。幼少期からツム谷のアップパー・ツムのチェカムパル(Chhekampar) VDC¹、チュレ(Chhule)村で過ごしてきたが、調査の数ヶ月前、英語の勉強のためにカドマンドゥウに出てきたばかりであった。ツム谷の標高は2000-3500メートル、マナスル自然保護区の中に位置する。ちなみに、首都カトマンドゥウから村までの道のりは現在でも、車で一日半、さらにそこから歩きで3,4日かかるという。

調査の際、TD女史はツム方言以外の言語でのコミュニケーションが難しかったため、同席したTD女史の兄、G氏(1997年生まれ, 調査当時23歳)がツム方言と英語、チベット語共通方言の間の通訳をつとめた。TD女史は、調査当時に18歳という若年ではあったが、牧畜語彙に習熟しており、インタビュー時に回答につまるような場面はみうけられなかった。§2.2での述べるように、長らく観光客に未開放であったツム谷において、家畜とともに過ごしてきた経験とTD女史の牧畜語彙への習熟度はおそらく関係していると思われる。



図1 ネパールにおけるチェカムパル VDC の位置(左)とチェカムパル VDC におけるチュレ村の位置(Nepal Red Cross Society の地図に改変を加えた)

¹村開発委員会 (Village Development Committee)

ツム方言 (*tsum skad*) は、中央チベット語 (チベット語中央方言とも) の一方言である。中央チベット語は、中国チベット自治区で話される他、ネパール北部でも話されている。以下に中央チベット語の方言に関する西 (1986) の分類を示す。ツム方言は、広義のキロン方言のうちの「2-d) シアル/ツム方言」に分類されている。

中央チベット語

- 中国内 1)ウー, 2)ツァン, 3)ンガリ
- 中国外 1)ガンダキ
- 2)キロン 2-a) キロン方言
- 2-b) ランタン方言
- 2-c) カガテ方言
- 2-d) シアル/ツム方言
- 3)ジレル
- 4)シェルパ
- 5)ロミ/シンサパ

図2 中央チベット語の下位分類 (西 (1986) に多少改変を加え、ツム方言には下線を施した)

ツム方言には高低二種類の声調があるようである。本稿では、高声調は /ā/ のように母音に上線で、低声調は /a/ のように母音のみで示す。

2.2 牧畜の現状

ツム谷は、1998年に設立されたマナスル自然保護区の管轄内にある。自然保護区内では、政府の環境保護政策に従い、自由に放牧ができない。また、1998年から2008年までの間、観光客に開放されていなかったこともあり、伝統的な暮らしが残っており、「隠れ里」(*sbas yul*) と呼ばれている。近年では、観光客が訪れるようになり、トレッキングルートとしても人気がある。さらに、ツム谷全体で、「非暴力公約への集合署名」に2012年に署名しており、家畜や野生動物を殺すこと、家畜を業者に売り渡すことが禁止されている (Nima Lama & Jailab Kumar Rai (2013), Sudeep 2020)。肉は、草の少ない春の期間に自然死した家畜から得られる他、屠畜された羊や山羊の肉を中国側のチベットとの交易を通じて陸続きで輸入している。

調査当時、TD女史の実家には雌ヤク8頭、雌ゾ5頭、雄ゾ3頭、雄馬1頭、雌馬1頭が飼育されているとのことであった。雄ヤクは飼っておらず、種付けに必要な場合には、近所から借りてくるという。

以前は羊も飼育していたが、現在はいないという。当地は、夏営地と冬営地に分けられている。ちなみに、チュレ村から5.5キロメートル南に位置するラマガウン (Lamagaun) 村における羊毛加工作業について報告した Gible (2018: 14, 翻訳は筆者による) でも、「ツムの多くの村では羊を飼っておらず、ラマガウンでは馬とゾが一般的である。谷でみかける羊はたいてい、茂った草を食べさせるために家畜を放牧しに来たチベット人の羊飼いのものである」と指摘されている²。また、ラマガウン村で加工されていた羊毛もチベットからもたらされたものであったという。

ツム谷では、糞拾いは女性の担当する作業とされているが、搾乳と乳加工、放牧作業は男女どちらも行う。また、自家消費用に、ネギ、大根、じゃがいも、大麦、カリフラワー、キャベツ、キュウリ、ニンニク、菜種などの野菜も栽培している。

以下では、一般的な牧畜文化語彙 (§3)、そして、家畜の識別語彙 (§4) に分けて単語を提示する。

3 一般的な牧畜文化語彙

まずはじめに家畜の名称や乳製品の種類、肉・毛・皮・糞、馬具、草地、テント周り、放生といった一般的な牧畜文化語彙をみていきたい。この語彙リストは、諏訪 (1982: 111-112) の「牧畜」文化の項目に、適宜補足を加えたものである。

3.1 家畜の名称

以下の家畜のうち、水牛、山羊を表す単語は知っているが、ツムにはいないとのことであった。また、ロバは飼育されておらず、単語は知らないということであった。

ツム方言におけるゾの名称は、「雌ゾ」が *dzo*、「雄ゾ」が *dzobo* といったように、「雌」のほうが無標である点が特徴的である³。

表1 家畜の名称

ツム方言	チベット文字転写表記 ⁴ (逐語訳)	意味
<i>tundō</i>	<i>dud 'gro</i> (動物, 畜生)	家畜の総称
<i>jā</i>	<i>g.yag</i> (雄ヤク)	雄ヤク (性成熟した個体)
<i>bri</i>	<i>'bri</i> (雌ヤク)	雌ヤク (性成熟した個体)
<i>dzobō</i>	<i>mdzo po</i> (ゾ-接辞)	雄ゾ (性成熟した個体)
<i>dzo</i>	<i>mdzo</i> (ゾ)	雌ゾ (性成熟した個体)
<i>langō</i>	<i>glang go</i> (雄牛)	雄牛 (性成熟した個体)

² ネパール全体におけるヤクとゾの分布状況や飼育の概況は Joshi et al. (2020) を参照されたい。

³ アムド・チベット語含め、チベット文化圏他地域では、雄が *dzo*、雌が *dzomo* のように、雄が無標になるケースがよくみられる。

⁴ チベット文字転写表記は斜体で示す。チベット文字との対応が不明の場合には?と表記する。

paō	ba (雌牛)	雌牛 (性成熟した個体)
tōjē	?	仔牛
majē	ma he (水牛)	水牛
tābō	rta po (馬接辞)	雄馬
tāmō	rta mo (馬-接辞)	雌馬
tāūrū	rta phrug (馬子)	仔馬
ra	ra (山羊)	山羊
lu?	lug (羊)	羊
tāfē	rta drel (馬 ラバ)	ラバ

次に、ヤクとゾの成長段階別の表現を示す。「2-3 歳」(tāmā) 以外の表現はヤクとゾで異なっていることがわかる。ヤクは 3-4 歳まで個別の表現があり、4 歳以上は、性成熟した個体として、雄は jā, 雌は bri と呼ばれる。0-4 歳の未成熟のヤクの総称としては、雄は jāūrū, 雌は brite^hōŋ という名称がある。ゾは 2-3 歳まで成長段階別の表現があり、3 歳以上は性成熟した個体として、雄は dzobō, 雌は dzo と呼ばれる。0-3 歳の未成熟のヤクの総称としては、雄は dzourū, 雌は dzote^hōŋ という名称がある。

表 2 ヤクとゾの成長段階別表現 ((m)は「雄」(male), (f)は「雌」(female)を表す)

年齢	ヤク	ゾ
0-1 歳	nājē (m, f)	piū (m, f)
1-2 歳	doŋ (m, f)	jārū (m, f)
2-3 歳	tāmā (m, f)	tāmā (m, f)
3-4 歳	ŋimā (m, f)	dzobō (m), dzo (f)
未成熟未成熟の個体の総称	jāūrū (m), brite ^h ōŋ (f) (0-4 歳の未成熟のヤクの総称)	dzourū (m), dzote ^h ōŋ (f) (0-3 歳の未成熟のゾの総称)
4 歳以上	jā (m), bri (f)	dzobō (m), dzo (f)

3.2 乳製品

「チーズ」を表す表現は、「(長い形状の) 乾燥チーズ」te^hūr wē と「(細かい粒状の) 乾燥チーズ」te^hūrēip の二種類がある。te^hūr wē は、20 センチほどの長さの線香のような形状のチーズであり、お湯につけてふやかし、炒り大麦の粉のお粥 (tsām^hūk, rtsam thuk) に入れて食べるのだという。

表 3 乳製品

ツム方言	チベット文字転写表記 (逐語訳)	意味
wāŋ [wāā]	'o ma (ミルク)	ミルク、生乳
mar	mar (バター)	バター
te ^h ūr wē	chur ? (チーズ?)	(長い形状の) 乾燥チーズ
te ^h ūrēip	chur zhib (チーズ 細かい)	(細かい粒状の) 乾燥チーズ

3.3 肉、毛、皮

ヤクの毛は、体の一番外側に生える、硬くて長めの上毛である「剛毛」と、その下に生える、柔らかい下毛である「柔毛」の二種類に分けられる。ツム方言でもこの二つの言い分けがみられる。

表4 肉、毛、皮

ツム方言	チベット文字転写表記	意味
eā	sha (肉)	肉
jākeā	g.yag sha (ヤク 肉)	ヤク肉
lukeā	luk sha (羊 肉)	羊肉
dzoeā	mdzo sha (ゾ 肉)	ゾの肉
eīrkōk	shi ? (死ぬ?)	(体力が落ちて) 死んだ家畜の肉 ⁵
tsīpū	rtsid spu (剛毛 毛)	ヤクの剛毛
k ^h ūlū	khu lu (柔毛)	ヤクの柔毛
pū	spu (毛)	ゾの毛 ⁶
pal	bal (羊毛)	羊毛、山羊毛
kōwā	ko ba (皮)	(ヤクなど家畜の) 皮

3.4 糞

各家畜の糞に関する名称をまとめる。牧畜民たちは家畜の糞(主にヤク糞)を乾燥させ、暖をとったり調理をするための燃料として利用している。ヤク糞については、乾湿、状態、加工方法によって異なる表現がみられた。ちなみに、燃料用の木材は naā または eīŋ と呼ばれる。

表5 家畜糞と糞集め用の背負い籠

ツム方言	チベット文字転写表記	意味
teiā lānqā	lci rlon pa (糞 湿った-接辞)	ヤクの湿糞
ealā	?	壁に貼りつけたヤクの湿糞
eālqā	bshal rnyang (下す 下痢)	ヤクやゾの下痢状の糞
sērkāṃ	ser skam (黄金 乾いた)	未加工のまま乾燥させたヤク糞
teiā kāmbō	lci skam po (糞 乾いた-接辞)	壁に貼りつけて乾燥させたヤク糞
teeōr	lci ? (糞?)	ヤク糞の山
tāōrāŋ	rta ? (馬?)	馬の糞
rimāŋ	ril ? (羊糞?)	羊の糞
balē	? sle (? 籠)	糞集め用の背負い籠

3.5 馬具

鞍とその周りの馬具、頭絡に関する単語もみられた。

⁵ 家畜種を問わない表現。屠畜という殺生を行わずして得られた肉であるため、食べても罪が少ないと考えられている。

⁶ ゾの毛には特に用途はないという。

表 6 馬具

ツム方言	チベット文字転写表記 (逐語訳)	意味
gā	sga (鞍)	ゾの鞍
jāāgā	g.yag sga (ヤク 鞍)	ヤクの鞍
tēcgā	rtā'i sga (馬-属格 鞍)	馬の鞍
jop	'ob (鎧)	鎧
kaklō	? glo (? 腹帯)	腹帯
ṣāp	srab (頭絡の下部)	頭絡の下部 ⁷

3.6 テント周り

goṭhālo「家畜追い」はネパール語からの借用語である。テントには、黒テントとビニールテントの二種類がある。現在は黒テントは用いず、もっぱら、ビニールテントが使われているという。

表 7 草地、飼料、テント、家畜追い

ツム方言	チベット文字転写表記 (逐語訳)	意味
t ^h āṅkā	thang ? (平原 ?)	草地
pāṅ	spang (短い丈の草の生えている草地)	なにも植えていない畑
rijā	ri ? (山 ?)	丘
tsāsō	rtswa gso (草 養う)	まぐさ (乾草)
te ^h ā	chas (飼料)	飼料 (ツァンパ、塩、水を混ぜたもの)
sōōmā	so ma (大麦の芽)	(ゾに与える飼料としての) 大麦の芽
bra	sbra (黒テント)	(ヤク毛の剛毛で作った) 黒テント
k ^h ūr	gur (テント)	ビニールテント
lēēpa goṭhālo	klad pa (上-接辞) goṭhalo ⁸ (家畜追い)	家畜追い
lērō	klad rogs (上 手伝い)	(搾乳ができる) 家畜追いの手伝い
pejō	? g.yog (? 助手)	(搾乳ができない) 家畜追いの手伝い

3.7 家畜にまつわる宗教儀礼 (放生)

放生に関する単語をまとめる。ts^hēzār と呼ばれる放生は主に、チベット暦の正月に行われる。

表 8 放生

ツム方言	チベット文字転写表記	意味
ts ^h ēzār	tshe ?	神仏の加護を求めたり、ラマへの供養を目的として、所有畜の中から優良な個体を選んで放生すること。また、そのように放生された家畜

⁷ 手綱と端綱、馬銜を含む、頭絡の下半分。

⁸ デーヴァナーガリーで表記されたネパール語単語の転写表記。

ts ^h ētār	<i>tshe thar</i>	市場で売られている家畜や鳥、魚など、殺されようとしている状態の生き物を購入して放生すること。また、そのように放生された家畜
ts ^h ētāk	<i>tshe btags</i>	放生家畜につける布

4 家畜の識別語彙

次に、ツム谷の牧畜において、主要な家畜であるヤクとゾ、そして、馬の外貌表現について扱う。牧畜を主要な生業のひとつとする人々の使用しているチベット語には、一般的に、家畜の年齢、雌雄、外貌や役割、性格などを表す家畜の認識語彙がみられる。チベットの牧畜民たちは、複数頭の(場合によっては何百頭もいる)家畜を管理するために、家畜を呼び分ける認識語彙を日常的に用いている。ツム方言においてもヤクの毛色、模様や位置、角の形状についての表現がみられた。毛色については馬の毛色についても聞き取ることができた。

4.1 毛色

毛色については、ヤク・ゾの毛色 (§ 4.1.1) と、馬の毛色 (§ 4.1.2) に分けて述べる。

4.1.1 ヤクとゾの毛色

ツム方言におけるヤク・ゾの毛色には6色がみられた。「黒」、「薄茶」の毛色のみは、ヤクとゾで表現が異なる。「白」を表す *dkar*、「黒」を表す *nag*、「灰色」を表す *sngo* のみは基本色彩語彙(長野 1980)で表現されている。

表9 ヤクとゾの毛色表現

ツム方言	チベット文字転写表記(逐語訳)	毛色
<i>kār-bō</i>	<i>dkar po</i> (白-接辞)	白
[ヤク] <i>rok-pō</i> (m)/ <i>ro-mō</i> (f) [ゾ] <i>narīl</i> (m, f)	<i>rog po</i> (黒-接辞)/ <i>rog mo</i> (黒-接辞) <i>nag ?</i> (黒-接辞)	黒
[ヤク] <i>k^hāmbū</i> (m, f) [ゾ] <i>k^hāmbū</i> (m)/ <i>k^hāmo</i> (f)	<i>kham bu</i> (茶-接辞)/ <i>kham mo</i> (茶-接辞)	薄茶
<i>ŋō-nbō</i> (m)/ <i>ŋō-mō</i> (f)	<i>sngo po</i> (青-接辞)/ <i>sngo mo</i> (青-接辞)	灰
<i>t^hāwō</i> (m)/ <i>t^hāmō</i> (f)	<i>khra bo</i> (まだら-接辞)/ <i>khra mo</i> (まだら-接辞)	白と黒のまだら
<i>k^hāmḡā</i>	<i>kham 'dra</i> (茶混)	白と薄茶のまだら

4.1.2 馬の毛色

馬の毛色を表す表現は、ヤク・ゾの毛色の表現とは異なる。茶色のバリエーションが多い点特徴的である。

表 10 馬の毛色表現

ツム方言	チベット文字転写表記 (逐語訳)	毛色
kārbō	<i>dkar po</i> (白-接辞)	白
narīl	<i>nag ?</i> (黒-接辞)	黒
mūkpō	<i>smug po</i> (墨色-接辞)	黒味がかかった濃い茶色
marmō	<i>dmar mo</i> (赤-接辞)	濃い茶色
ṡāllō	?	亜麻色がかかった茶色の個体
ṡājbā	<i>ngang pa</i> (キヤメル色-接辞)	キヤメル色の個体
rākpā	<i>rag pa</i> (薄いキヤメル色-接辞)	薄いキヤメル色
ṡōnbō, ṡōrīl	<i>sngo po</i> (青-接辞), <i>sngo ?</i> (青-接辞)	灰色

4.2 模様的位置

ヤクを個体識別する際には、毛色だけでなく、その模様的位置 (多くの場合は、黒い毛色に白い模様) で言い表すことがよくある。以下に模様的位置による表現を提示する。この表現は、ヤクとゾで共通している。

表 11 ヤクとゾの模様的位置

ツム方言	チベット文字転写表記 (逐語訳)	模様的位置
doṡbō (m)/doṡmō (f)	<i>gdong po</i> (鼻筋-接辞)/ <i>gdong mo</i> (鼻筋-接辞)	眉間白
nārbō (m)/nārmō (f)	<i>sna po</i> (鼻-接辞)	口白
eurwō (m)/eurmō (f)	? (?-接辞)	鼻筋白
kamār, kawā	<i>kwa ?</i> (顔白?), <i>kwa ba</i> (顔白-接辞)	顔白
siṡṡār	? <i>dkar</i> (? 白)	肩白
ṡāā kārpō	<i>rnga dkar po</i> (尻尾 白-接辞)	尻尾白
kāṡkār	<i>rkang dkar</i> (足 白)	足白

4.3 角の形状

角 (つの) の表現はヤクとゾで共通している。ちなみに、角は単独で *padzō* という。

表 12 ヤクとゾの角の形状

ツム方言	チベット文字転写表記 (逐語訳)	意味 (イラストの番号)
paṡē	? <i>'phred</i> (角 斜め)	V字型に開いた角 (①)
padzō kokōr	? <i>gor gor</i> (角 丸い)	内側に丸まった角 (②)
teṡāṡē	? (?)	長くて下がり気味に伸びている角 (③)
padzō lejō	?? (角?)	片方が短く、片方が長い角 (④)
pateā	? <i>chag</i> (角 割れた)	角の片方が折れた状態 (⑤)
phṡlē	?	左右の角が同じ方向に曲がった状態 (⑥)

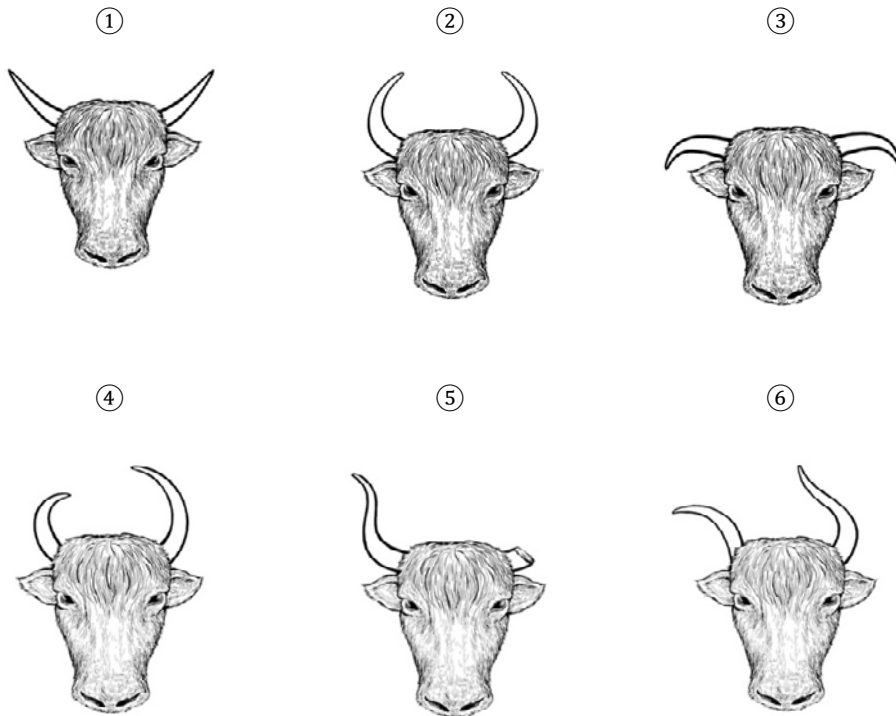


図3 ヤクの角の形状の表現 (イラストは漫画家の蔵西氏による)

5 まとめと考察

本稿では、ネパール北中部のツム谷で話される中央チベット語ツム方言における牧畜文化語彙について述べた。限られた時間の中での調査ではあったが、家畜の名称、牧畜五大資源(乳・肉・毛・皮・糞)、馬具、草地、テント周り、放生、そして、家畜の認識語彙(毛色、模様、角の形状)に関わる単語を収集することができた。

今回のツム方言の調査結果を他地域の事例と比べると、成長段階別の表現や毛色表現において、ヤクとゾで表現が(一部)異なること点が特徴的であった。毛色、模様の位置、角の形状といった家畜の識別語彙については、アムドの事例と共通する点も多くみられたが、特に、角の形状において独特の表現がみられるなどの独自性も散見された。

謝辞

ツム方言話者のTD女史、また、彼女の兄で調査の際に通訳をしてくださったG氏に心より感謝申し上げます。また、知人を通してTD女史とG氏に連絡をとり、インタビューの機会を設けてくださった、現地調査同行者の別所裕介氏、インタビューの際に同席し、調査が円滑に進むよう協力してくださったもう一人の同行者である小松原ゆり氏にも感謝いたします。

本研究は、JSPS 科研費 (「シナ=チベット諸語の歴史的展開と言語類型地理論」(代表:池田巧, 18H05219), 「民俗語彙と特有文法に着目した、チベット語東西方言の記述的・通時的研究」(代表:海老原志穂, 19K00567)) の成果の一部です。また、本稿の内容の一部は、2020年7月25日にオンラインで行われた、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の共同利用・共同研究課題「チベット・ヒマラヤ牧畜文化論の構築—民俗語彙の体系的比較にもとづいて—」2020年度第2回研究会における口頭発表「家畜の認識語彙の体系比較に向けて」に基づいています。貴重なご意見をいただきました研究会のメンバーの皆様に感謝いたします。

参考文献

- 海老原志穂 (2018) 「アムド・チベット語におけるヤクの呼び分け—青海省ツェコ県の事例を中心に—」池田巧・岩尾一史 (編) 『チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開』京都: 京都大学人文科学研究所: 381-400.
- 海老原志穂 (2020) 「ブータンにおける牧畜文化語彙の調査報告—ラヤ語の事例を中心に」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』22: 51-65.
- 海老原志穂 (forthcoming) 「ヤクとゾの毛色の識別に用いられる色彩語彙の比較研究—ネパール北中部のチベット系民族の事例を中心に—」『日本チベット学会会報』第67号.
- Gibble, Erica (2018) 'Woven Narratives from Tsum Valley: Reconfiguring Local.' Independent Study Project (ISP) Collection. 2982: https://digitalcollections.sit.edu/isp_collection/2982/ (2021年9月9日最終閲覧)
- 星泉・海老原志穂・南太加・別所裕介 (編) (2020) 『チベット牧畜文化辞典(チベット語・日本語)』東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- Joshi, S., Shrestha L., Bisht N., Ning W., Ismail M., Dorji T., Dangol G., and Long R. (2020) 'Ethnic and Cultural Diversity amongst Yak Herding Communities in the Asian Highlands.' *Sustainability* 12. 3: 957-981.
- 長野泰彦 (1980) 「チベット語の色彩語彙」『国立民族学博物館研究報告』5. 2, 409-438.
- Nima Lama and Jailab Kumar Rai (2013) 'Tsum Sacred Conservation Area in Gorkha, Nepal': http://www.env.go.jp/en/nature/asia-parks/pdf/wg3/APC_WG3-23_Nima%20Lama%20and%20Jailab%20Kumar%20Rai.pdf (2021年9月9日最終閲覧)
- 西義郎 (1986) 「現代チベット語方言の分類」『国立民族学博物館研究報告』11. 4, 837-900 + 1 地図.
- Sudeep Jana Thing (2020) '100 Years of Declaring Non-Violence in the Tsumba Territory of Life in the Nepalese Himalaya.' Website of Indigenous and Community Conserved Areas (ICCA): <https://www.iccaconsortium.org/index.php/2020/01/21/100-years-of-declaring-non-violence-in-the-tsumba-territory-of-life-in-the-nepalese-himalaya/> (2021年9月9日最終閲覧)
- 諏訪哲郎 (1982) 「東ヒマラヤのモンパ族の文化語彙に見られるチベット語からの借用—モンパ族

の基層文化への接近の試み— 『学習院大学文学部研究年報』 29: 99-140.

(えびはら しほ・日本学術振興会/東京外国語大学)

The vocabulary on the pastoral culture in Tsum Tibetan (north-central Nepal)

Shiho Ebihara

This paper reports on the vocabulary about the pastoral culture in Tsum Tibetan (Tsum dialect of Central Tibetan) spoken in the north-central Nepal, which is neighboring the southern Tibet. Lexicons about livestock names, the five primary livestock resources (milk, hair, meat, skin, and dung), horse tack, grassland, tents, lifeliberation, and physical features of livestock (coat colors, locations of the pattern, horn shapes) were collected. A more detailed survey on the colors of the livestock's coat and the locations of the pattern is an important issue for the future study.